

第9回みんなの新聞感想文コンクール作品紹介

小学3・4年生の部 優秀賞

「ゲーム障害は病気」



小野 楓華さん

私は、ゲーム障害についての記事を読みました。ゲーム障害は病気と同じで、ゲームをしたい気持ちがおさえられない、ゲーム優先の生活になってしまっています。中高生の五十一万人がゲーム障害と疑われ、全世界の人の2〜3割の人がゲーム障害であることを知っておどろきました。

ゲーム障害になるとこんなことが起きるのかと考えてみました。親や家族と話さなくなる、勉強をしなくなる、そして将来、仕事をすることができなくなるかも知れません。また自分の気がおどろきました。

ゲーム障害にならないようにするために、最初のルール作りが大切だと思います。私は、家族とゲームのルールを決めて守っています。一つ目は、一日のゲーム時間を絶対にするということです。タイマーをセット

「パレオパラドキシアの化石」



杉田小3年 佐藤 敬斗君

「えーすごい。六十年い前に見つけた化石の正体がわかったんだって。」

とお母さんが言いました。「え、何。」

とぼくはお母さんが読んでいた新聞を見に行きました。ぼくは家にあつた大むかしの動物の図かんでパレオパラドキシアを調べました。

「六十年くらい前ってことは、じいちゃんとかはあちやんが生まれたころよりも前からいってこと。」

とぼくは思いました。化石なんてどこでも見つかるわけでもないのに、このふくしまけんにも化石があつた

なんて、すごびっくりりしました。二千万年から一千万年前に海で生活していた動物だと新聞に書いてあつたけれど、すごむかしのこと、ぼくにはそううできないです。

ぼくは家にあつた大むかしの動物の図かんでパレオパラドキシアを調べました。新聞の絵にもあつたみたいなのに、カバみたいな動物だと思つていました。化石を見つけてから、何の化石かわかるまで、長い時間がかかることあることもわかつたけれど、ぼくもいつか、化石を発見してみたいと思つきました。

「今生きている、パレオパラドキシアの親せきはいないんだって。」

とお母さんに、

「大好きなもののために」



日新小4年 日黒 大翔君

「ゲーム障害」は病気。この見出しを見た時、ぼくはびっくりしました。自分の好きなゲームに「病気」というかわい言葉が使われていたからです。

ゲーム障害になると、家族や学校や勉強よりもゲームを優先してしまうとあります。ぼくはゲーム機を買ってもらつた時に、お母さんと約束した事をやぶつてしまつたことがときどきあります。学校の宿題よりゲームを優先してしまつたり、ゲームをする時間を守れなかつたりしてしまつたり

す。記事を読んで、こういう事をしないように努力しなきゃいけないと思つきました。

ぼくの住んでいる会津若松市には、「あいづっこせん言」というものがあつて、毎朝学校でみんなが言っています。「あいづっこせん言」の三番目に「がまん言」という言葉があります。一つのことを達成するために他の何かをがまんすることも必要で、自分の思いどおりになることができないから、自分自身で努力することが大切とい

「食べ残しゼロにするには」



玉川小6年 小林 未来さん

食べ物はとても大切な物だ。生きるためには必要な物だからだ。私達が普通に食事をしている事が、あまりにも当たり前過ぎて残すことにも罪悪感が無い。そんなことを改めて考えさせられたコラムだった。

私の家では、米も野菜も作っている。台所の米が無くなれば、祖母がすぐに持って来てくれる。野菜もそうだ。それ以外はスーパーに行けば何でもあつた。あまりにも飽食過ぎて、食べ物に感謝する気持ちが、うすれてしまつて

がする。好きな物を好きなだけ食べられることはとても幸せなことだ。私の口には食べ物が入るまで、色々な人が関わっている。お肉や魚は、命をいただいている。その事を思えば、残すことも残してしまつてしまう。一回に食べる量を考え、また食べた量だけ取り分ける。学校給食でも、きらいな物はなるべく残さないようにし、クラスでも食べ残しゼロを目指す。家での食事でも同じだ。このコラムを読んで、これからの食事を見直したいと思つた。

「自分達にできる事」



大島小5年 桜井 亮人君

マイクロプラスチックごみ問題。日々、当たり前のように使つてゐるプラスチックが海に流れる事によって起きている深刻な環境問題だ。マイクロプラスチックは、研磨剤等に含まれるとても小さなプラスチックや、プラスチックが海を流れている間に粉々になり、小さなプラスチックごみだ。プラスチックごみは、生物に害をあたす。多いのが誤飲や誤食だ。魚や海鳥等がえさ間違えて食べると消化管に詰まつたり、満腹だと勘違いしてえさを取らなくなつたりする。それが原因で死んでしまつた鳥の写真をみた。すくは理解できなかった。

お腹の中はほぼプラスチックで、ごみが、体から飛び出してゐたから。あまりにも悲惨な状態に愕然とした。

プラスチックがどのようにして海に流れ着くのかわるか。ごみを海に捨てる人のせいでないはずだ。それならば、風で海まで飛んでいつたりしているのだから調べてみると、洗剤等が排排水口を流れて、下水道をほほほりぬけて海に流れたり、ビーズを使つていてる製品が削つている際に出る微粒子が風に吹かれたり、たぐさんのプラスチックが海にたどり着く

「便利さと引き換えに」



湯本小6年 藁谷 琢也君

使い捨てプラが、海洋汚染につながつてゐる。この記事を見た時、ぼくは衝撃を受けた。ぼくたちの日常に、プラスチック製品は当たり前のように存在しているから。飲み物や食品の入れ物は、必ずプラスチック。買い物すれば、レジ袋に入れてくれるお店もある。ぼくの家のゴミ箱も、週に一度のプラスチックごみは、あつた間

に行つて買つてゐた、と教えてくれた。これは確かにごみが出なくてよい方法だ。しかし、今の時代にこれができるか。ぼくは、難しいと思つた。今はお店にエコバッグを持って買つて行くだけなのに、瓶などをわざわざ持参するのは大変だと考えるからだ。それだけ便利な生活に慣れてしまつてゐるのだ。そして便利さと引き換えに、環境汚染が進んでいる悲しい事実にも目を向けないといけない。

ぼくが環境のためにできること。それはプラスチックをできるだけごみとして排出しないために、洗つて繰り返し使える水筒